

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを合わせて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ひだまり
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	唐津市佐志1146番地11
記入者名 (管理者)	山根 由江
記入日	平成 19 年 9 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者がその人らしく生活できるように援助していくことを目標として、「寄り添い」と言う介護理念を掲げている。</p>	○
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>①会議、ミーティングでグループホームのあり方の確認、援助を行い、記録をとっている。</p> <p>②グループホームの役割や認知症についての参考資料の講読を薦め、知識の向上に努めている。</p>	○
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>散歩や買い物の際、挨拶などで交流に努めている。ホームの便りを発行して、理念の浸透に努めている。</p>	○
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>仕事上はもちろんのこと、普段の生活の場でも挨拶を心がける取り組みを行っている。</p>	○
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地元のボランティアの方との交流や民生委員の訪問、近所の特産物販売店を積極的に利用し、地域の方々との交流に努めている。</p>	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進委員会を中心に貴重な意見を頂き、それに向けて取り組んでいる。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体が自分たちを振り返る貴重な場として前向きに取り組んでいる。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者も積極的に参加して頂き毎回、貴重な意見を頂いている。2カ月1回の会議などで、その二ヶ月で行った行事や、運営していく上で問題になったことなどを相談している。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機会を逃さないように取り組んでいる。介護相談員など、派遣していただいたり、市からの研修依頼や見学依頼などを受けている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会・勉強会に参加している。また参加できなかった者は、研修報告を行って、知識を共有できるように努めている。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①今までに虐待はあってない。 ②職員一同高齢者の虐待について日々考え、家族と共に見過ごさないよう、常に注意を払っている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や家族が納得していただけるまで、説明の時間をとり、誤解・不安が残らないように取り組んでいる。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①ふ苦情、意見箱を設置し、不満や苦情を表せるようにしている。 ②苦情処理対応マニュアルを準備し、すぐに対応できるようにしている。	○	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	①面会時報告したり、こちらから定期的に報告をする。 ②便りで報告している。 ③金銭管理は、お金を預っていない為、必要時に、施設で立て替えて、利用者の利用したお金は、領収書と使用目的を家族に説明している。 ④健康状態を把握するために、月二回の往診、また必要に応じては受診をし、必ず家族に連絡・報告をしている。	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①すぐに対応し、速やかに改善している。 ②入居者、家族などが苦情を出し易い雰囲気作りをし、働きかけている。	○	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所会議・所長会議・主任会議・全体会議・アンケートを自己評価表などを設けて、職員の意見を聞く。	○	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日勤を5人体制で勤務。そうすることで利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応が出来るようにしている。	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	①異常や離職が、できるだけ無いように職員への気くばりや、意見を取り入れるようにしている。 ②各施設に慰労金を出し、職員間のストレスをためないようにしている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①全体会議で勉強会を設けたり、法人内外の研修を計画している。②介護・看護会議を設け、勉強会を行っている。	○	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のグループホームに訪問にいたり、勉強会時に、参加しあっている。	○	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	①会社より慰労金が毎月出るので、定期的に食事に行くなどして職員同士の親睦の機会を作っている。 ②運営会議・主任会議・全体会議等に相談したりして、アドバイスをもらうようにしている。 ③仕事上の悩みなどお互い話し合える雰囲気作りに努めている。	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	①自己評価等を利用して、職員の公正な判断を図ると共に、向上心の育成にも役立っている。 ②全体会議で、理念をもとに、研修を行い各自の向上心を持つように努めている。	○	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	①事前訪問で、関係作りをしている。 ②10年前の生活環境、趣味、嗜好、その人に関わる情報を把握し、なるだけ、本人のこれまでの生活スタイルを受容することで、コミュニケーションをとりやすくし、本人の不安や困っていることをいえるような環境を作る。	○	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	①訪問・文書・電話等で関係作りに努めている。 ②家族、利用者に年二回アンケートを発行し、社長に直接返信で返す対策を取るようになっている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細かい確認を取りながら必要な援助を見極め、対応している。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネージャー・家族と相談し、その方にとって一番良い方法を取る。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	①入居者を人生の先輩として尊敬しながらありのままのその人を受け入れている。 ②寄り添いの理念のもと、学び支えあうことを重視している。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	①家族の介護負担を考える一方で、家族と利用者が共に支えあえるような関係作りが出来るよう職員一同家族とのコミュニケーションを大切にしている。 ②2カ月に1回家族会を設け、またさまざまな、常時を計画し、家族への参加をお願いしている。施設を利用することで、今以上の利用者様・家族との関係が近くなるように努めている。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	一方的にならず、よりよい関係が構築されるように援助に努めている。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①お正月・節句・お盆・大掃除など昔からのならわしを家族的な雰囲気で行っている。 ②御彼岸などは、墓参り、敬老会には、地元の敬老会に参加されたりしている。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係に常に目を配り、一人ひとりが楽しく生活できるように援助に努めている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了することが今まで無く、亡くなられて始めて契約が終了することになる。しかし、初盆参りや、残されたご遺族の方の顔を見にうかがったり、施設の行事には参加していただけるよう、資料を送付している。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①本人本位を常に考えている。面接の機会を設け確認している。 ②アンケートを利用者様を書いてもらって、希望や意向を把握している。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	10年前より、生活環境を把握している。嗜好・趣味・環境・等等	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	昔の生活歴からのその方の得意なこと今までしてきた事を把握し、生活の中での楽しみとして力を発揮してもらおうよう努めている。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	①会議で話し合いプランを決めている。 ②家族の方へホームで立案したプランを開示説明し、承諾を得ている。その際、家族のニーズも取り入れている。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	①実施期間を明示している。3ヶ月ごとに評価をしている。 ②個々の状態の変化に応じ、随時カンファレンスで話し合い、介護計画をたてなおしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①一目で援助内容が分かるように日々の生活援助を具体的に書き出して、カルテに綴じ、チェックするようにしている。 ②個別ケアも一日一日記入している。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	①買い物に行きたい、散歩に行きたい等その時々々に要望に応じて柔軟な援助を行っている。 ②学習療法を、毎日実施し、入居者様の生活にはりを持たせる努力をしている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて、協力機関に協力を求め応じていただいている。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、協力を得、対応している。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時に地域包括支援センターと協働できるように情報を得ている。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①本人の希望のかかりつけ医を設け、定期的に往診、受診している。 ②かかりつけ医とは、24時間体制で契約している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣に病院があり、定期受診し相談している。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日勤に常時看護師を常勤させ、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者が、医療機関と相談しながら連携をとり、早期退院につなげている。	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	①入所時より話し合い確認しかかりつけ医との協力体制をとり、方針を共有している。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医・看護師・介護職・家族と情報交換し、共に変化に備え、検討し準備している。	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	①入居者様や家族が納得のいく退去先に移れるような体制がある。 ②今までに住み替えることがなかった。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	①一人ひとりが人生の先輩として尊敬しまたお客様として人格を尊重し関わっている。 ②一人ひとりのプライドをそこねない様、またその人の世界を大切に受け入れることを大切にしている。 ③記録の保管等に配慮している。	○
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	①自分が色々決定していくかは、日頃のケアの満足感から生まれるためゆったりとその人に合わせた生活をしてもらう。 ②一人ひとりの好きなこと、今までしてきた事を情報収集しておきそれらを話題にし、したい事を決めていく。 ③静かな方、あまり表現しない人に対して、特に働きかけ聞きます。	○
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①生活の流れを職員側のやり易さにあわせるのではなく入居者側に併せている。どんなに忙しいときでも入居者が話しかけてきたらきちんと向き合い話を聞く。 ②入居者様に関わる時はゆったりすることを大切にしている。	○
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人ひとりの希望に合った化粧、髪型、服装をしていただき、自分で出来ないところは介助している。 理美容は訪問美容を受け入れているが、本人が希望されれば、希望される美容室へ足を運んでいる。	○
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①母体施設の栄養士に相談しながら献立を作ってもらっている。 ②食事はもちろんのこと、準備片付け等も利用者と職員と一緒に楽しんでいる。 ③利用者様の希望を週一回とる、選択メニューを取り入れている。	○
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は個々に合わせて対応している。また馴染みの食器の利用など食事を楽しんでいただけるよう支援している。	○

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	①排泄チェック表を活用し失敗を防ぎ出来るだけトイレにて排泄していただくように取り組んでいる。 ②入所時オムツだった方も、トイレに誘導することで自力排泄が可能になられている。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせた入浴ができるよう支援している。 風呂が大好きな方は一日何度でも入浴してもらい、毎日希望の方は必ず毎日入浴するようにしている。お湯の温度・入浴時間も一人ひとりの希望に合わせている。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムをつくり、安眠につなげている。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の個々の楽しみ、役割が持てるよう入居者様の意思を尊重したり、職員から情報を提供して張り合いのある生活につながるように支援している。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①訴えがあった時、出来るだけ速やかに対応している。 ②訴えの無い方にも働きかけ、買い物に出掛け、楽しんでいただいている。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かい日は散歩・買い物など積極的に出掛けるようにしている。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ふるさと訪問を行っているが、家族によってはできない方もいる。	○	家族の理解が得られるよう話し合いを継続する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙など自由に利用できるよう訴え時は、すぐに対応している。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	①居室でお茶を飲みながらゆったり過ごしていただいている。 ②歓迎し、入居者様の生活の様子を丁寧に話している。 ③宿泊時(利用者の状態に合わせて泊まってもらっている)は泊まりやすく配慮している。	○	
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①行っていない ②行う必要がない	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	①日中の施錠していない。 ②する必要がない(自由に外に出掛けてもらい必ず一人あとをついていく。)	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して安全に配慮している。利用者様の所在確認をしている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所、管理方法を明確に決めている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	①緊急事態の対応マニュアルがあり全ての職員が対応できる。 ②介護、看護マニュアル・転倒防止マニュアルを準備し、事故防止に努めている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急事態の対応マニュアルがあり、全ての職員が対応できる。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	①行政の防災担当及び地域の消防団と連携がとれている。 ②緊急時対応マニュアルを設置して、緊急時に混乱無いようにしている。	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族への理解を求めると共に、一緒に相談して対策を考えている。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	①看護師が常時勤務し早期発見に努めている。 ②各勤務帯で健康チェックし、情報を共有し、早期対応に繋がっている。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服者、一人ひとりの薬の効能を知り、医師の指示通りに内服できるように支援している。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	①野菜は温野菜にしてなるべく多く摂取している。 ②運動(散歩・ゲーム) ③便秘薬使用の方がいる。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	①毎食後必ずうがい、歯磨きを行っている。出来ない方は介助している。 ②入れ歯の方は、定期的に預り、ポリデント消毒を行っている。 ③口腔体操を行っている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・摂取量の状態を記録し、情報共有し個々のケアに繋げている。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	①インフルエンザ、疥癬、水虫、MRSAなど予防や対応の取り決めがある。 ②感染マニュアルがある。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	①食材に応じて衛生管理に努めている。 ②調理用品などは、熱湯(100℃)消毒をしたり、布巾はハイターに毎日かけ、管理している。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	①玄関回りに花を植えたり、手作りの表札、新聞を受けを設置して協力している。 ②玄関は常に開放している。 ③生ものはその日のうちに購入し、食材に出す。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①家庭的で、カーテン・家具などを暖色系としており、ほっとするような雰囲気が出来ている。 ②暖簾こたつがけなど、手作りのものを使用している。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の通路を妨げない箇所に、ソファを置き気のあった人同士で談話したり、一人でほっとする場所を居室以外にも設けている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、人形などの生活用品を自由に持ち込んでいただき、その人らしい部屋作りをしている。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	①空気の入替えは時間を決めて夏冬でもきちんと行っている。 ②冷暖房調整には気を配り、温度計、湿度計はこまめに見ながら調整している。 ③食物の残りや汚物などはすぐに処理している。	○	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計にて、自立援助を支援している。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	家族からの情報等を活かし、工夫につなげている。また、入居者様の希望を取り入れている。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	①庭に畑を作ったり、洗濯物干しを置いたりして純分に生活している。 ②テラスでお茶を飲んだりして楽しんでいる。	○	

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

寄りそいの理念のもと、利用者様、利用者様のご家族の方に寄りそい、絆を深めています。ただ預るだけではなく、認知症予防のために昨年10月より学習療法を開始し認知症の軽減のために日々努力しています。